

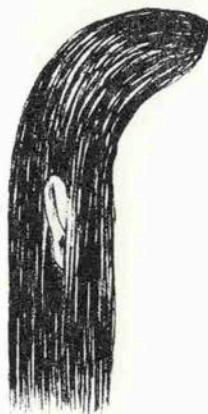
ショート・ショート

HONEY

〈後編〉

下大路 由佳

え・佐藤 英夫



夕方、空の彼方に一切れの黒い雲が姿を見せたかと思うと、それはたちまち空一面に蔓り、大気は熱を帯びて雨の予感を運んで来た。ヴァーノンがオフィスから坂の上のアパートメントに戻った時、明け方彼が港で出会ったレイコという女を、彼は彼のテラスに見出したのだった。好きなだけ眠っていくといい、ヴァーノンは自分がそう彼女に言い残して、今朝アパートメントを出たことを、その時になつてようやく思い出した。

電灯の灯されていない薄暗い室内で、レイコは窓辺にもたれて空を見上げていた。湿気を多量に含んだ大気が、汽笛の音を普段よりずっと大きく響かせ海をいつもより身近かに、彼女に感じさせた。レイコは、自分が見送った一人の男のことを考えていた。いや、男ではなく、男の肉体を借りて彼女の前を横切つていった一つの死を、彼女は囁みしめていたのかもしれない。レイコはもう、その赤毛をした、ストックホルムからやつて来た若い下級船員の顔を、はっきりと自分の脳裏に組み立てることが出来なかつたのだ。男の肉体は、彼女の記憶の中で既に溶解はじめたが彼が彼女に残した、永久的な別離だけが、彼女の身体の奥深くに大きな虚脱感となつて沈没して行くのをレイコは感じた。彼女はその虚脱を充分認識つていた。だが決して、その感覚に慣れることが彼女にはなかつたのだ。

「恋人のことを考へてゐるのですか？」
「違ふわ」
「あれは、恋人じゃなかつたのですか？」
「恋人でも何でもないわ。ただの……、男の一人よ。あ

たしは、いつもこうなるの。誰かと別れる度に、本当に辛くてたまらないの。死んでしまったいくらい、辛いの」

ヴァーノンはレイコの傍らにやつて来て彼女と並ぶと雲が垂れ籠めた空と海に顔を向けた。

「それじゃ、どうして……」

彼は娼婦の身の上話をなど聞きたくもなかつたのだ。だが彼は、レイコに話させたかった。彼女の唇から発せられる言葉に、娼婦という擦り切れた概念をかけ離れた、いわば擦り切れた概念を裏切る彼女の言葉に、彼は耳を傾けたかったのだ。

「どうして？ 何が？ そうね、みんな聞くわ、同じよ、いつも。どうしてこんな生活をしてるのか？ どうして、どうして。お生憎さまね、あたしには悲しい身の上話をなんか何も無いのよ。あたしは、自分でこの生き方を選んだの。そうよ、あたしは……」

雨の最初のひと滴が夾竹桃の剣の形をした細長い葉の上に落ち、すぐさま、激しい雨滴の群れがやつて來た。その後、空の果ての方で低い太鼓の轟きに似た雷鳴が聞え、続いて、灰色の空を縦に、短かい光が走つた。

「Thunder (雷)」

ヴァーノンは思わず口走つた。

「Thunder is beautiful.」

彼の耳許で、レイコの抑揚のない声がした。

「サンダーが美しい？ あたしには、ひどく悲しく見えるわ」

「サンダーは美しいよ。あれは驚異だ。我々の力を越え

た驚異だから美しい」

「サンダーは……、人生よ。あたし達の命は、サンダーによく似ているわ。偶然の中で生まれて、偶然の中で消滅する、痕跡さえ残らずに……」

再び、樹木の張り裂けるような雷鳴と共に、矩形の光が空を縦に走り、レイコの横顔を輝らし出した。いきなり彼女はヴァーノンの胸の中に飛び込むと、激しく泣きじやくりはじめたのだ。

「抱いててちょうだい。あたしを暖めて。あたしは恐い

の、死が、空しさが、恐いの！」 ヴァーノンの頭の中で、二つに分裂したレイコの矛盾が錯綜した。今、彼の

胸の中で、幼ない生命が、あまりの幼なさの為に死に對する限りない恐怖の中で脅えるように、震えているレイ

コ。そして、自ら死を弄んででもいるように、別離を死と名づけ、別離の中に耽溺しているレイコ。ヴァーノンは当惑し、しかし、彼女の不可解にひたむきな何かが、

彼に、彼女を抱きしめていなければならぬと命令するのだ。レイコは懸命に何かに抵抗しようとしているよう

に見えた。ヴァーノンは、彼女が抗おうとしている何か

——もしかしたら、彼等の生命が普遍的に背負つてゐる、ほとんど宿命あるいは運命の名で呼ばれて憚らない

空虚——に、彼も又抵抗しつづけて來たのではなかつたのかと思った。土地を変え、新しい不安の、あのめくるめくような戦慄の中に自らを投じること、彼には自分を燃

焼させていると感じる、その熱い時が必要だった。何の為に？ おそらく、世界と、世界といふ、流動してゆく大きな空しさと自己存在との対比を、自分自身に禁じる為に……。

ヴァーノンは、揺れ動いているレイコの、涙ですべすべ

した顔に、自分の顔を接近させた。彼女の唇から洩れて

いる呻きのような言葉を奪い去る為に、彼女の唇に自分の唇を密着させた。しかし彼は、自分が決して欲望の所

業で彼女を抱いているのではないことを知っていた。レイコの肉体を突き抜け、その遙か遠くに在る、いわば彼女の精髓そのものと一つに結び合わさりたいという、それは希望に似た熱情の仕業だった。ヴァーノンは、理性

が徐々に熱情によつて支配され、その支配の下に屈服してゆくような時間の中で、レイコの繰り返す「抱いていいて。あたしを抱いていて」という声の持つ意味を理解し

たような気がした。

樹々の葉から落ちる、雨だれのやさしいスタッフカードを置いて驟雨が去つたあと、静けさが夜を取り巻いた。

ヴァーノンとレイコは、薄い毛布の下に体を横たえたま

ま、もう長い間何も話していなかつた。しかし、沈黙は彼等にとって耐え難くはなく、彼等はお互いが安息に身を委ねているのを知つてゐた。

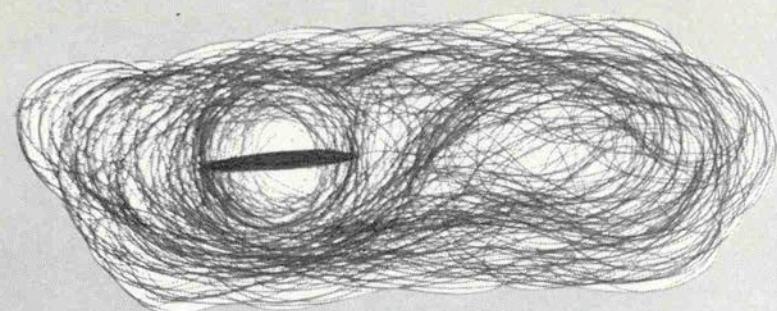
「サンダーは、美しいのかもしないわ、あなたの言うようになつた。

闇の中でレイコが囁いた。

「君は、サンダーを悲しく見えると言つたじゃないか」

レイコは小さく寝返りを打つと、ヴァーノンの顔を自分の両手の間に挟み込み、そして、闇の中へほのかに見える彼の顔の輪郭を、愛情を持った視線で辿つた。

「ヴァーノン」



レイコは初めて彼の名前を口にした。

「ヴァーノン、あたしには、すべてのものの中の、死、だけが見えるのよ。そして、死が強くあたしを攔まえた時、あたしは苦痛を感じるわ。それを乗り越えなければならぬと思うことが、あたしをとても疲れさせる……。あたし達は沢山の死を乗り越えて、乗り越えて、限りもなく果てもなく無数の死を乗り越えて……、そして結局は骨折りでしかないのよ。あたしも又、その死の中へ入つて行くだけのことなのよ」

「しかし君は、自分から死を求めてゐるよう、僕には見える。だつて君は、自分で選んだと言つた」

「そう、あたしは、自分で選んだの。あたしは耐えられなかつたわ、死の重さが。だからあたしは、死にならうとしたのよ、そうよ、逆療法のようなものね……。でも変なの、あたしはそれを恐がつてゐるけど、それを求めているのよ。だつて、それは美しいわ。たつた一つきりの、絶対、だから。あたしは、それが見えて来る時にしか、もう誰かを愛したり出来ないの。何故って、それはすべてを輝やかせる、すべてを美しくする……。あなたは毎日、あの太陽を眺めていて、太陽がそこに在ることさえ意識していられないわ。でも、もしあの太陽を、今日限り見ることが出来ないとあなたが知つたとしたら、多分あなたは、命と引き替えにしても惜しくはないほど、それを貴重なものだと感じるわ。この世の中で一番美しくて貴重なものだ、つて。死は、美しいわ。絶対、だから美しいわ。他のことはみんな、何もかも、不確かなよ。確かさなんか、一つも無いわ。でも死だけは、動かせない絶対の真実なの……」

「それは、おそらく不幸な考え方だ」

ヴァーノンは、彼の頬を捕えていたるレイコの細い手首を握りしめた。だが彼には、レイコが進んで行こうとしている彼女の途を変更させ得る、決定的な言葉は見つからなかつたのだ。レイコは体を小さく丸くして、動物のように彼にすり寄つた。

「今は、今はもう話したくないわ。話すと、みんな嘘みたいたい気がするから。眠いの。あたしは、あなたの暖かさを感じて眠りたいの、それだけよ」

夕立のあつた夏の日から、三年が過ぎたのだと、ヴァーノンは、テラスの向うに、レイコが取り込むのを忘れた彼女のパジャマが、濃くなつてゆく夜の中で、白さをきわ立たせているのを眺めながら思つた。現在彼は、彼の肉体の一部分のようにして絶えず彼の生活の中に、ひつそり棲息して来たレイコと自分との間に、遠い距離を感じていた。ヴァーノンには分らなかつたのだ。彼等二人の前方に横たわる別離という死と同じ意味を持つ存在が、レイコに彼を愛させたのか、それとも、彼を愛そうとすることの為にレイコが死の意識を常に必要としたのか。しかし彼女に問い合わせてみたところで、レイコ自身にもそれは答えられないに違ひなかつただろ。だが、とヴァーノンは思つた。疑惑を持ちはじめれば、すべての愛は碎け散り、消滅してしまうだろ。レイコの言うように、死以外の絶対はあり得ないのだから、と。そして彼は、いざれにせよ彼等はお互いを必要としていたのであり、現在もやはり必要としていることは事実なのだ、と自分に言い聞かせた。キッチンから聞える金属の触れ合う微かな音を、ヴァーノンは、又しても彼を見舞つたひどい無力感の中で捕えていた。

レイコは、チョコレートの芳ばしい香りに包まれたキッチンで、鍋の中の、ココア色をしたFudge^{フudge}を、飽きもせず搔き廻している。彼女は、鍋の中の、ミルクとチョコレートと砂糖、それからバニラエッセンスで作られた液体を、注意深く、分離させないように、温度計の目もりに視線を配りながら搔き廻している。柔らかく、しかも微妙な歯ごたえを持ったFudgeを作るには、温度が大切なのだ。ヴァーノンがレイコに、このアメリカの家庭でしばしば作られる砂糖菓子の名を教えた時、彼女は、ヴァーノンの、多分幸福に充ち、すべてが輝やかしかつただらう幼年期の記憶の為に、それを作りたいと考

えたのだった。レイコは現在、慣れた手つきで鍋を搔き混ぜながら、ヴァーノンと二人がかりで、小さな鍋の中のココア色をした液体を相手に格闘した日を、狭いキッチンの中に甦らせていた。それは、香水色の陽さしが眩しい秋の午後で、レイコは、本屋の店先で数日前に見つけたアメリカのホーム・キッキングブックを開いていた。そして彼女はその中にFudgeを見つけ、ヴァーノンに向かって叫んだのだ。

「Honey、ほら、Fudgeがあるわ！」

彼等はすぐに車をガレージから出すと、キッチンブックの指示通りの材料を揃える為に街へ飛び出して行ったのだった。

キッチンブックと計量カップを見比べながら材料を配合しているレイコの、奇妙に嚴肅な表情を、ヴァーノンは面白そうにキッチンの扉に寄りかかって見ていた。数十分後、鍋から立ち昇るチョコレートの甘く暖かい匂いに、ヴァーノンは、ロスの郊外の小さな町にある、自分の家の白く広いキッチンをひと時訪れているような錯覚を、ベッドルームのソファに寝そべりながら楽しんだ。母がFudgeを作る間、その傍らで彼女につきまとつていた十歳のヴァーノン・マーティン。ヴァーノンは眼を閉じ、束の間、彼はあの、不安と身震いするような戦慄を忘れた。彼は、彼の人生を、この甘く暖かいチョコレートの匂いの中に埋めず、その中に深く静かに沈めてもいいような気がしたのだ。穏やかな死が彼を迎えてやつて来るまで、そのまま人生がその位置に停止し、日々が流れていることにすら気づかない、そうした生活の中、自分を委ねてもいいと彼は思つたのだ。その時、レイコが大きな声で彼を呼んだ。ヴァーノンがキッチンに入ると、レイコは泣き出しそうな顔で彼を見上げて言つた。

「Honey、くらやつても固まらないわ。ホットチョコレートみたいなまよ」

ヴァーノンがレイコに代つて今度は鍋を搔き廻す番だ

つた。彼は、液体のままで固まらないFudgeに苛立ち、騒々しい音を立ててやつ氣になつて三十分近くも鍋を搔き廻したのだ。つまるところ、彼等の大変な努力にもかかわらず、Fudgeは、とうとう完成しなかつた。鍋の中のどろどろの液体を眺ながら、レイコは情ない声で言つた。

「どうするの？」

「この変テコな代物を」

それから彼等は、自分達のひどく生真面目で馬鹿氣た數時間に突然気づき、涙が出るほど笑い、そして狹いキッチンに立つてお互いに対して、肉親のような親近感を覚えて抱擁し合つたのだ。

キッチンの白く冷たいタイルを凝視めながら、レイコ

はあの秋の日に、たまらない愛着を抱いた。しかしFudgeという單なる砂糖菓子が、レイコに刺されるような疼きを与えるのは、彼等の愛の死が、すぐ目前まで近づいているのを、彼女が自覚しているからに他ならないことをレイコは認識していた。もし、あたしが彼に従いて行つたとしても、そして同じようにこうしてFudgeを作つたとしても、それはもう、この切迫した愛とは全く異質な何かでしかなつた。あたし達は、Fudgeが單なる砂糖菓子の名になり、それが日々の中に極めて自然に入り

込んでゆく、そういう世界に生きるようには出来ていなかつた。レイコは鍋を火から下ろすと、キッチンの電灯を消し、ベッドルームに入つて行つた。

「ヴァーノンは海に向かつたソファに、以前と同じようにして腰を下ろしたままだつた。レイコは彼の背後に近くと、小さな声で言つた。

「ヴァーノン、愛しているわ」

それから彼女は、彼の柔らかな金髪を愛撫した。もう海は、既にどこに在るのか定かではなかつた。しかし、

海の匂いがしていた。

「あたしが男だつたら、あたしはあなたの生き方を選んだかもしれないわ。そしてあたし達は一生、友人

として結び合わさせていたかもしれないわ」

レイコは見えない海を視線で探つた。あたしは、あなたのように余りにも希薄な実在感を追つて行くことが出来ない。すべての死を吸い尽しつづける大地に溶け入ろうとすることしか、あたしには出来ない。

「Honey」ヴァーノンが呟いた。だが彼は、それに続くどんな言葉も探し当つてることが出来なかつた。ヴァーノンが呟いたHoney、それはレイコの内部に大きな残響を残し、七月の夜の中に消えた。

(完)

☆新しい関西を創造する総合雑誌

オール関西

〈9月号予告〉

☆グラビア 「女の四季」 金井 克子

〃 「万葉記」 ⑥吉野 犬養 孝

〃 「And His Ladies」

小谷 隆一

〃 「神戸の女」

〃 「私の散歩道」

☆特集 京阪神ファッショングループ地図

〃 ブライダル

☆連載対談② 望月美佐、鶴居羊子

☆商売の最前線 「俵屋吉富」

☆激動のアラブを行く⑩

イラク(上) 林辰彦

☆「織田作之助伝」⑮大谷晃一

☆「競馬醉狂連」⑦新橋遊吉

☆ 昨今世相診断「上方咄家初秋夜話」

笑福亭光鶴、桂小米

☆ 美術の話題

1. 万国博跡地美術館

2. アサヒアートナウ

☆ 大阪芸術大学の可能性をさぐる

・音楽

☆ 新連載「大阪物語」 石濱恒夫

月刊オール関西編集部

大阪市北区梅ヶ枝80梅新東ビル7F

TEL 06-364-2434~7(代)

曲線ハイウェイ

武田繁太郎
え・横塚



（あらすじ） 東名高速サービスエリアで多木洋介は神戸の女性宇津康子と知合い、逢瀬を重ねるうちに康子にひかれていた。ある日友人岡本和彦と共に神戸へきた多木は康子に会えず、彼女の面影に似た辰野英子を紹介され、六甲山へドライブに出かけた。ロマンティックな情景に誘われて英子を抱きしめた多木の胸に、初めて感じりいとおしさがつわり、その夜二人は愛しあって別れた。

そんな時突然として康子から電話があり、多木と康子は二人の愛を確かめあつた。翌朝、風のように行つていた康子を追い神戸にさきた箸の多木は、岡本の早呑み込みと神戸の雰囲気の中で英子を捜している自分に気付いた。英子をみつけた多木は淡路島へのドライブに出かけたが、その帰りに中年の男と寄りそつて歩いている康子を目撃した。その衝撃を負つて帰京した多木のもとで康子からの届託のない電話が入つた。十日間の休暇をえた多木は、北海道へのドライブに康子と出かけ、札幌から海岸沿いの国道を通り、さいはての村島牧に向つた。その村は、難病にかかる象の花子が温泉で闘病していることで、かつて新聞に報道されたことがあつた。

宮内温泉についた二人は、花子を見舞い、花子の世話をしているS氏と親しくなつた。翌日二人は村内の見物に出かけ、S氏に教えられたジャスパのある浜に遊んだ。その夜、二人はS氏を招いて夕食を共にし、花子の話を耳を傾けた。

るが、標高千三百メートルのニセコアンヌプリ山を中心にして、その周辺を温泉群がとりこんでいた。

ニセコは、内地の大手の観光資本がはいりこんできて、すっかり土地を食いあらしているという。

そういう噂をきいていたので、多木は、まだ彼ら大手企業に侵蝕されていなさうな温泉を狙い、国道五号線から山ぞいの道をすこしはいつた薬師温泉というのに泊

二泊して、島牧に別れを告げると、二人は、札幌からくる途中とおつたニセコに寄つてみることにした。

ここは、スキー場のあることで、内地にも知られていて

多木のカンは、あたっていた。薬師温泉には宿が一軒しかなく、木造の古びたその宿は、老夫婦が二人だけできりもりしているという、ひなびた山の温泉宿だった。

宿のまえから、すぐまじかに、雄大なアンヌプリの全容が迫つてみえた。アンヌプリの左手に、イワオヌプリ、チヤヌヌプリなど、千メートル級の山なみがつらなつていて。スケールの大きな眺めである。

この宿の湯は、人肌とかわらぬほどぬるい。さいしょは、体温を吸いとられるような感じだが、いつまではいついても、のぼせることがない。そのうち、身体が芯から湯に溶けていくような、ほのぼのとした気分に浸つていく。

「こんな温泉、はじめてだな」

「あたしも、はじめてだわ」

二人は、湯舟のふちに頭をもたせかけ、ながながと身体をのばしたまま、三十分以上も湯につかっていた。うつらうつらと夢でもみているようなこちよさだった。

翌日は、ニセコから羊蹄山の南麓をぬけて、その南にある洞爺湖にて。一人は、湖畔にたちならんでいるホテルの一軒に宿をとった。昨夜のひなびた山の宿とはうつてかわり、六階建てのどこの観光地でもみられるようなホテルだった。

「なんだか、熱海か白浜にでもきた感じね」

「うむ。洞爺湖がこんなに俗化しているとは意外だったな」

多木も、もつと人為のくわわらない、原始の姿をのこした湖だと思いこんでいたのである。

五階の部屋の窓の下は、湖水が波打っていた。湖の真ん中に、こんもりと四、五百メートルほどの高さで樹木の茂った島が浮んでいる。その手前に、かわいい饅頭型をした小島もみえた。

「さすがに、景色がいいな」

多木は、視界いっぱいにひろがっている洞爺湖のたたずまいをながめながら言つた。湖は大きくもない。小さ

くもない。ちょうどひと目でながめられる、恰好な広さだといえただろう。

「だけど、この湖、なんだか出来すぎているって感じだな。絵葉書を見るみたいな感じだ。こういう景色は、ちょっととながめるのにはいいが、毎日みていると、あきるんじゃないのかな」

多木は、ふと、山中湖畔からながめる富士の姿を思いだした。あのあたりからの富士の姿も、まるで絵葉書をみるよう出来すぎていて、こちらが照れ臭くなるような感じだった。

山中湖もすっかり俗化してしまつたが、この洞爺湖が、多木をがっかりさせたほど俗化しているのも、わかれような気がした。湖畔の水も濁つていた。林立するホテル群から吐きだされる污水が犯人たつたのだろう。

「フランスに、ツーリズムはツーリズムを破壊するといふ言葉があるそうだ。日本流に言えば、観光資本が観光資源を食いつぶすと言うことか。ここも、その例外ではなさそうだな」

「やっぱり、島牧のほうがすばらしかつたわね」

康子も、あらためて島牧のよさを思いだすよう言つた。

だが、この洞爺湖だけではなかつた。二人は、洞爺湖から支笏湖にまわり、さらに足をのばして、大雪山にある層雲峠をたずね、阿寒湖にも寄つてみた。

「ここまできたら、思いきつて、知床までいってみましょーか」

康子ははりきつて言つたが、

「いや。知床はよそう。あすこは、流行歌で有名になつた秘境だからな。有名な秘境なんて、おかしな話だ」

多木は、十勝の高原を長駆苦小牧めざしてクルマを走らせながら言つた。

ニセコもよかつた。支笏湖もわるくはない。阿寒もすてきだった。みんな、それぞれに特色のあるよさを持つていた。

だが、二人の結論は、期せずして一致していた。やはり、島牧がいちばん印象がかったのである。

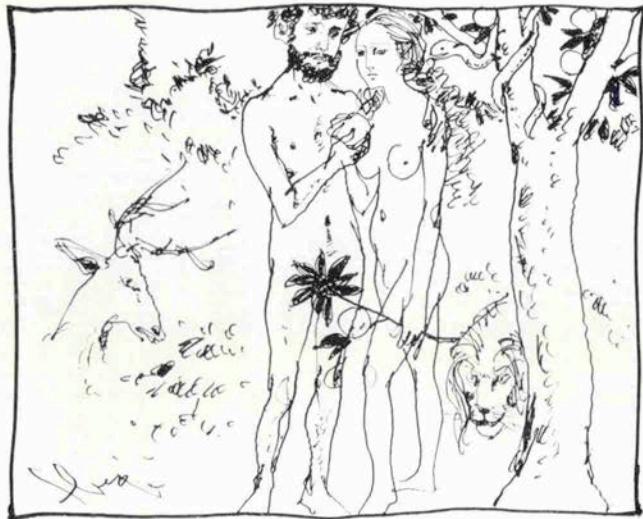
「島牧には、海、山、温泉と、三拍子そろつた変化の妙味といったものがあつたからな。食べるのも、当然、海の幸、山の幸に恵まれている。その点が、ほかの観光地とはちがつていた」

「そういえば、ニセコなんかも、静かで、ひなびいて

よかつたけど、単調といえば単調ね」

「そりや、まわりが山ばかりだからだ。アンヌプリは、たしかに美しい。だけど、山ばかりながめていると、景色に変化がなくなる。しかも、だされる料理は山菜ばかりだ。洞爺湖も支笏湖も、目にはいるのは、湖だけだからな。どうしても飽きがくるんだ」

「島牧は、おなじ山の景色でも、海岸辺は荒々しいぐら



い男性的で、一步奥にはいると、のどかな高原があつた

り、牧歌的な牧草地があつたり、山自体に変化があつて、あれじや、いつまでいても飽きさせないわね。お魚

でも、川の魚あり、海の魚あり、アワビが獲れ、ウニが

とれ、アユまで獲れるとは、知らなかつたわ」

「それに、象の花子もいたしね。Sさんの話もおもしろかった。いろいろ考えさせられたな」

苦小牧からふたたび乗船したフェリーのキャビンで、二人は、旅の印象を語りあつた。

「あなたに誘われて、思いきつてでかけてみて、よかつたわ」

「島牧を知り、そこに住んでいる花子とSさんに会えただけでも、きた甲斐はあつたな」

多木は、いまいちど、あの自然の宝庫につつまれた秘境の村のことを思い浮べながら言ったが、東京に帰つてからも、自分たち二人に語りかけてきたS氏の言葉のかけすかすが、あさやかに思ひだされるのだった。

S氏は、動物のセックスの生態から、人間をふくめた動物の愛と性の在り方を、氏独得の体験を通して語つてくれた。

むろん、人間は動物とはちがう。だが、どこがちがつているのか。それは、人間が知恵を持つてているということだろう。

人間は、かつて、知恵の木の実を食べた。その日から、人間は動物とちがつてきた。

動物は、すべて自然から与えられた本能のままに、素直に、柔順に生きてきている。

だが、人間は、身につけた知恵で、本能を自由気ままに操作しようとした。

第一の操作は、本能のなかにある欲望を、本性から抽出し、その欲望の持つ快楽をむさぼろうとした。

動物は、腹がへらなければ、ものを食べない。あの百獣の王といわれるライオンでも、腹がふくれていているときは、そばをかよわい動物が通つても、みむきもせず、ウ

ツラウツラと眠っている。それが、食の本能というものであつた。

だが、人間はちがつていた。人間は、食の本能のなかから、食べることの快樂を知つた。エサにする獲物をとることの快樂を知つた。その快樂だけを追いもとめて、釣だの狩猟だのという、ただ動物を殺戮する残忍な遊びをおぼえた。

愛も性も、種族保存という本来の生殖の本能から、いつのまにか、勝手に分離されてしまつていた。愛と性の快樂だけが、むさぼられていた。

だが、欲望といふものは、際限がなかつた。ひとたび欲望の虜になると、だれもが、とめどもなくその欲望を深おいしていく。そのはてにあるものは、欲望によつて身を滅すということだけだった。

人間は、動物とちがうことで、はたして幸福だったのか。

人間は、知恵の木の実を食べて、ほんとうに幸福になつたのか。

バイブルは、人間が知恵の木の実を食べたために、エ

デンの花園を追放されたと説いている。二十世紀の現代人も、バイブルのこの言葉を、あらためて思いだす必要があるだろう。

S氏も語つていた。現代のセックスは、堕落した、退廃したとよくいわれるが、もしもそうなら、もっと動物のセックスを見ならつたほうがいい。

S氏は、象の花子をタイの自然のなかにかえしてやっているのである。

なぜなら、人間もまた、どれほどこざかしい知恵を持つとともに、所詮は、自然の一部だからである。

「われは海の子」という唱歌があつたが、人間は、いまこそ、「われは自然の子」という歌を、謙虚に歌いつづけていかねばならぬ時期にきている。

愛も性も、その自然の子の営みであることを忘れてはならないと、多木には思えてきた。

(つづく)

〈神戸の催し物 9月ご案内〉

〈音楽〉

★内山田 洋とクールファイブ

9月3日(月) ①PM2:00~4:00 ②PM6:30~8:30
神戸国際会館 民音 会員制 ¥1,100

★国立平穂マンスデ芸術団——日本訪問初公演

9月5日(水)~7日(金) ①PM1:30~4:30 (7日のみ)
②PM6:30~9:00 神戸国際会館 S ¥5,500



★ダーク・ダックスをきくタベ

9月21日(金) PM6:30~9:00 神戸国際会館
A ¥1,300 B ¥1,000 C ¥800 D ¥600 曲目/第一部
ダーク北原白秋をうたう、第二部 銀色の道、星のほとり、
白い想い出、ある愛の詩、他 演奏/ダックリングス・グループ

★カーメン・キャバレロ

9月22日(土) PM6:30~8:30 神戸国際会館 民音
会員制 ¥1,200

★MFLフォーカンコンサート

9月24日(月) PM1:30~6:00 神戸国際会館 前売券
¥800 当日券¥1,000

★プラザーズ・フォア——《来日10年記念コンサート》

9月27日(木) PM6:30~9:00 神戸国際会館
A ¥2,400 B ¥2,000 C ¥1,700 曲目/グリーン・フィールズ、花はどこへいったの、500マイル、
漕げよマイケル、七つの水仙 他

★東京ジリストン演奏会——パール・コンサート(第11回)

9月27日(木) PM6:30開演 兵庫県民会館 9階ホール
¥700 曲目/Ⅰ パッハ……“音楽の掛け物”よりBWV10
79、Ⅱヴィヴァルディ……リコーダー協奏曲第3番、Ⅲパッ
ハ……シェンバロ協奏曲ホ長調 BWV1053

★オペラ「トスカ」

9月28日(金) PM6:30~9:00 神戸国際会館 労音
会員券 A ¥3,000 B ¥2,500 C ¥2,000 (一般券もあります)
指揮/外山雄三 演出/中村俊一 ソプラノ/成田絵
智子テノール/五十嵐喜芳

〈演劇〉

★テアトルエコー公演「11ひきのネコ」

9月17日(月)、18日(火)、19日(水) PM6:15~9:00
労演 会員券 ¥800 出演/熊倉一雄、山田康雄 他
<その他>

★山の講演と映画のタベ

9月4日(火) PM6:00開演 神戸国際会館 無料(先着2千名)

★第3回そごう秋のファッションフェスティバル

9月8日(土) ①PM2:00~3:30 ②PM6:00~7:30
神戸国際会館 整理券

★若柳流五柳会

9月9日(日) AM10:00~PM9:00 神戸国際会館 ¥1,500

★今岡頌子舞蹈研究所発表会

9月15日(土) 正午~PM7:00 神戸国際会館 無料
藤間流舞蹈会

9月16日(日) AM10:30~PM8:00 神戸国際会館
¥1,500

★山とスキーの映画会

9月26日(水) PM6:30~9:00 神戸国際会館 無料

神戸のうまいもんとドリンク

★日本料理

阿なご寿司 青辰
神戸市生田区元町通3-184
TEL 331-3435

讃岐名代うどん あこや亭
神戸市葺合区旗塚通7-5
トアロード店 TEL 391-2538
兵庫駅前店 TEL 575-5306

和食くれない
三宮生田新道浜側中央
KCBビル2F TEL 331-0494

かっぱう花くま
神戸市生田区花隔町45
TEL 341-0240

お茶漬・おむすび 悅味西
神戸市生田区北長狭通1の20
三宮さんらかタウン TEL 391-5319

お茶漬・おむすび
鍋もの ふる里
神戸市生田区北長狭通2の1
TEL 331-5535

たこ焼たちばな
三宮センター街(旧柳橋) TEL 331-0572

和風料理 樂
神戸市生田区下山手通3丁目41
トアロード西筋淡路交通入る TEL 391-8649

料亭 大しま
葺合区熊内町6丁目39の6
TEL 221-1360・1945

寿司ミハラ
神戸市生田区元町通1丁目12
TEL 391-3155

北海道郷土料理 蝦夷
神戸市生田区中山手通1丁目115
生田区東門筋東門会館ビル1階
TEL 331-7770

★西洋料理
レストラン アボロン
神戸市葺合区八幡通5丁目6
TEL 251-3231

レストラン 麻雀 皮あらかわ
神戸市生田区中山手2-9
TEL 221-8547・231-3315

GALLERY & STEAK HOUSE SAN-MON 三門
神戸市生田区中山手通二丁目98/99
TEL 331-5817

ステーキハウス れんが亭
神戸市生田区下山手通2丁目34
TEL 331-7168

レストラン 男爵
神戸市生田区中山手1-18
山手第一ビル1F TEL 241-0778

maison de la mode
花屋敷
三宮フラワーロード市役所前
TEL 251-2109

鉄板グリル
きやんどる
神戸市生田区北長狭通2-22
TEL 331-1183

レストラン キングスアームス
神戸市葺合区磯辺通4-61
TEL 221-3774

居酒屋 風
れすとらん
井戸のある家
生田新道新世紀南
TEL 331-5664

レストラン ムーンライト
三宮・生田新道
TEL 331-9554

串かつ店
和蘭屋
三宮相互タクシー北入
TEL 321-0230

クリ・鉄板焼
BARBECUE & STEAK
月

神戸市生田区北長狭通1-24
生田神社前 TEL 331-2509

六段
生田区元町通3丁目
TEL 331-2108

イタリア料理
ドンナロイヤ
神戸市生田区明石町32
明海ビル地階 TEL 331-7158

レストラン ハイウエイ
神戸市生田区下山手2-20
TEL 331-7622

ピツアハウス
ピノツキオ
神戸市生田区中山手2-101
TEL 331-3545

レストラン フック東店
神戸市生田区栄町1-5-3
TEL 321-3207

ピザ&スパゲティ
ガルの店
葺合区琴絃町5丁目1-7
西山ビル1F TEL 241-9025

ミリオナークラブ
生田区山本通2丁目50の2
レストラン 231-9393~5
メンバーズ 221-1162

レストラン セントジョージ
神戸市生田区北野町1丁目130
TEL 242-1234

メキシコ小料理亭
ティファーナ
神戸市生田区中山手通1丁目4/12
パールコーポラスビル1F
TEL 242-0043

★喫茶
フォーエク
ウェスタン
ローストシティ
神戸市生田区三宮町3丁目22
TEL 331-3770

宮水の
ゴーピー
にしむら珈琲店
中山手店・神戸市生田区中山手通1丁目70
TEL 221-1872・231-9524
センター街店・神戸市生田区三宮町2丁目35
TEL 391-0669

modern Jazz & Coffee
さりげなく
生田区北長狭2-22 TEL 331-9762

喫茶・レストラン
バローン
神戸三宮サンプラザ地下
トアロード店 TEL 391-1758
TEL 391-1210

喫茶 ガーディニア
神戸市生田区東町113-1 大神ビル1F
TEL 321-5114

★club
阿以子
神戸市生田区中山手2丁目89
TEL 331-6069

club 飛鳥
神戸市生田区中山手1丁目117
TEL 331-7627

エドワーズ俱楽部
神戸市生田区北長狭通1丁目28
ホワイトロースビル5・6F 生田新道 TEL 391-3300

club 小万
神戸市生田区東門筋中島ビル3F
TEL 391-0638・4386

club さち
神戸市生田区中山手通2丁目75
TEL 331-7120

クラブ 佐久間
神戸市生田区東門筋ビュウスタウンビル3F
TEL 321-2226-7

クラブ 千
神戸市生田区下山手通り2丁目21
TEL 391-1077

洋酒肆 仏蘭西屋
三宮生田新道相互タクシー北入る
TEL 321-0230

club なぎさ
神戸市生田区北長狭通2の1 TEL 331-8626

club 蔵ふき
神戸市生田区下山手通2丁目 TEL 391-1515

くらぶ ぶーげん
三宮生田新道浜側中央KCBビル5F
TEL 331-8593

club Moon Light
BAR TEL 331-0886-391-2696
Club TEL 331-0157

クラブ るふらん
神戸市生田区北長狭通1丁目53 TEL 331-2854

クラブ 佐久間
神戸市生田区下山手通1丁目5 ゼウスタウンビル3F
TEL 321-2226-7

★STAND & SNACK
スタンド 英国屋
生田区下山手通2-6 相互タクシー横
TEL 331-1100-331-6600

スナック 工ルノタノ
神戸市生田区下山手通 TEL 331-6620

スタンド グラムール
生田筋岸ビル地階 TEL 331-4637

S N A C K
MATSUMOTO
神戸市生田区中山手通1丁目32/3
曾根ビル1F TEL 241-5470

カクテルラウンジ
サヴォイ
高架山側 テキの店北
TEL 331-2615

スタンド さりげなく
生田区下山手通2丁目31
生田筋上高地西入る TEL 331-3714

洋酒ハウス
雜貨屋
神戸市生田区下山手通2丁目
PHONE 078-321-0860

スナック ビジービー
神戸市生田区中山手2丁目
TEL 391-4582

居酒屋 ボルドー
生田新道浜側中央KCBビルB1F
TEL 331-3575

スナック シーザー
生田神社西門伊藤ビル地下
TEL 331-1429

洋酒の店 キヤンティ
神戸市生田区北長狭通2丁目3
TEL 391-3060-391-3010

スープとパン店
キャンティ北店
神戸市生田区下山手通3丁目8-9 TEL 331-3661

DRINK SNACK
スネカジリツ子
神戸市生田区下山手通2丁目
永晃ビルB1 TEL 391-8708

Stand&Snack
サントノーレ
生田区下山手通2丁目トア・ロード
TEL 391-3822

素舌洞でつさん
神戸市生田区北長狭通1丁目源平寿司3階
TEL 331-6778

STAND アトラス
生田区中山手通1丁目95
TEL 331-5433

Music Tea & Snack
チャップリン
生田区下山手通4丁目36
TEL 078-331-7888

スナック
GASTRO
神戸市生田区中山手通3-20
トアマンション TEL 231-0723

スタンド
クラブ・ガーデニア
神戸市生田区中山手通1丁目115
東門筋中島ビル2F TEL 391-3329

山の手
神戸市生田区中山手通1丁目
ソネビル1F TEL 221-3637

婆(SARA)羅
生田区中山手1丁目91
TEL 391-1647

サロンアルバトロス
生田区中山手通り1丁目24の7
大和ナイトプラザ1F-B TEL (231)3300

スペイン風
薔薇園
生田区東門筋東門ヴィレッジB
TEL 331-0708

snack MORE MORE
神戸市生田区中山手通1丁目107
TEL 391-4162

山莊
神戸市生田区北長狭通1丁目22
TEL 391-5823

SNACK & DRINK ガスライト
神戸市生田区加納町3丁目1番地61
TEL 241-7724

スタンド 紋
神戸市生田区北長狭通1丁目41-1レンガ筋
TEL 331-8858

★KOBE PLAY GUIDE MA
神戸 おもい

★KOBE PLAY GUIDE MAP★
神戸のうまいもんとドリンク



東大閣★

四

九

KAWAUCHI

10

卷之三

*アル

10

110

7

10

bal' on antique series

XIII 船

泉 江三

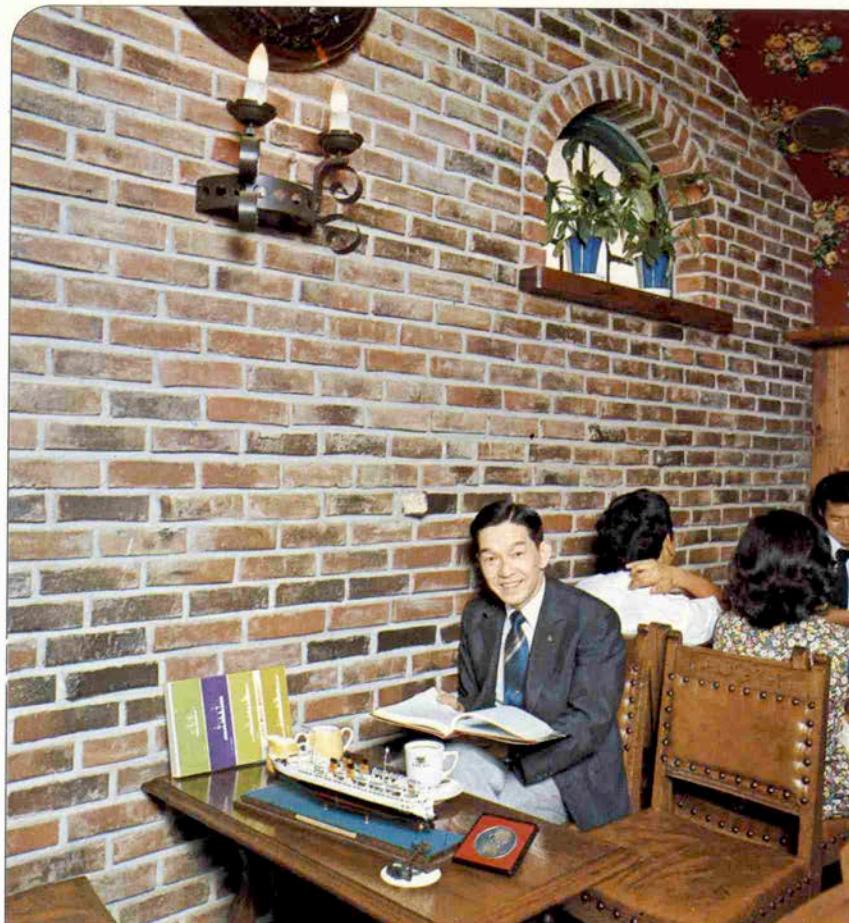
〈「軍艦の模型」著者〉

「船の模型もいいもんですよ。私はもっぱら自分で作るほうですが、もうかれこれ35年になります。余暇の時間を自由意志でまったく自動的にそれに没頭する。徹底的なりサーチに始まって仕上げが終るまで、気の長い話ですが4・5年かけるものもあるんです。凝り性なんですね。きっと。

全國に250人程の仲間がいますが、みんな経験豊かな人達で、模型のこと以外に色々教えられるというメリットも少なくないようです。一時的なブームに踊らされないしっかりした〈自分の趣味〉をもつこと。これは〈心豊かな生活〉に非常に大切なことなんじゃないでしょうか。

カメラ／米田定蔵

◀トロードバロンにて

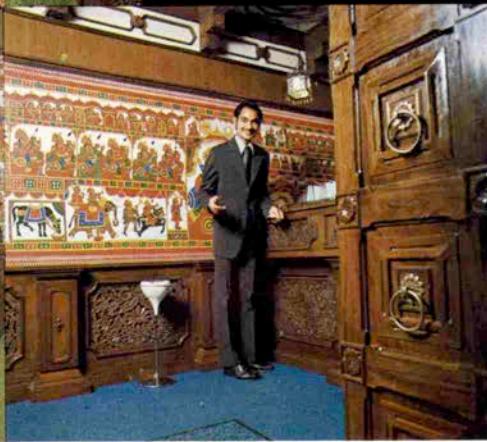
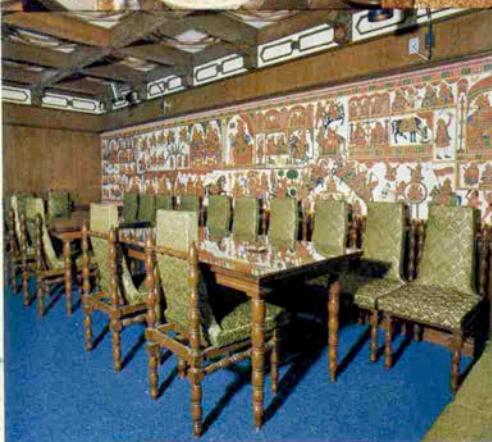
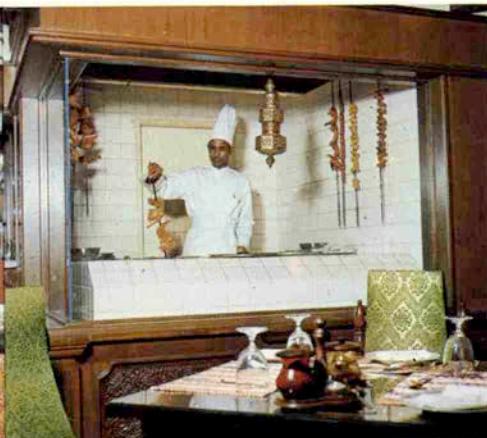


バロン

★英國風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店
TEL 391-1758 AM11:00～PM 9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店
TEL 391-1210 AM10:00～PM 9:00迄

★コーヒーショップセンター街店
TEL 391-1375 AM10:00～PM 9:00迄



本場のインド料理の店がオープンしました。インド料理の秘訣は、その複雑・微妙な味の組合せにあり、香料の調合と調製は何百年もの伝統に裏づけされた技術によってはじめて可能となるものです。インドの土壤につちかわれた本場のインド料理を神戸のみなさんをはじめ、日本中のみなさんにはぜひ味わっていただきたく思います。

Gaylord

INDIAN
RESTAURANT

11:30 a.m. ~ 2:30 p.m. 5:00 p.m. ~ 10:00 p.m. 水曜定休
フラワーロード・明治生命ビル地下1階 251-4359

●当店の自慢料理●

○特製タンドールランチ

タンドールチキン・シークカバブ
ボティカバブ・チキンチッカ・ナン
チキンマサラ
ローガン・ジョシュ・ダルスペシャル
野菜ブナ・紅茶かコーヒー

¥1,600

○菜食者特製タンドールランチ

三種類の野菜料理
サモサ・ライタ
紅茶かコーヒー
¥1,200
その他各種のメニューを用意しております

Our town in KOBE

ゆたかな街づくり



KOBE
NIKKEN

総合インテリア
建築設計施工・店舗改造

株式会社

神戸日建

神戸市東灘区御幸通3丁目1
PHONE (078) 251-3525㈹

おふくろの味とはいったい何なのか？　ふるさとの味とはいったい何なのか。人間が食生活に求めてきた習慣は文明の進化と共に大きく変ろうとしている。三分間待つことが現代のおふくろの味であり、それこそ、みそ汁の味もひとあじちがってしまった。私達は大量にコンベアで生産されるハンバーガーをエサとしてたべてはいけないと思う。たしかに「起きて半帖、寝て一帖、天下をとって二合半」かもしれない。しかしこれは乞食道にすぎず、大事なことは何をそのときに選ぶかで、食生活のゆたかさについて、もう一度考えなおさなければならないと思う。このレストラン・ゲイロードは本格的インド料理の店で、お国がら出される料理にも哲学的なものを感じさせてくれる。私は、ふりかえり、ふりかえり店を創っていきたい。(小野原)

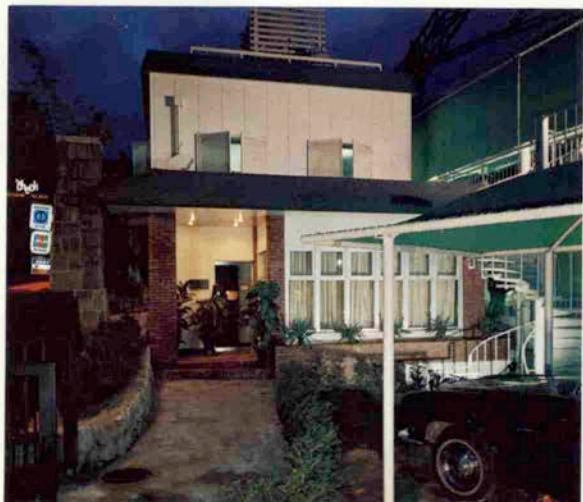
ジャガーのある店



The Check

高級レストラン
神戸店 オープン

諏訪山ゴルフセンター レストハウス内



おなじみの高級レストラン「ザ・チェック」が神戸にやってまいりました
落ちついた雰囲気で炭焼料理をどうぞ……

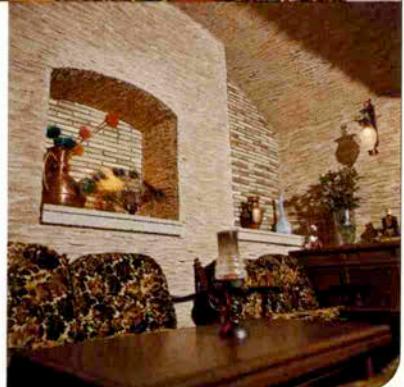
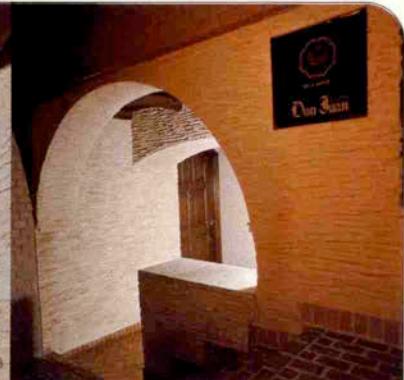
リラックスしていただけるバーカウンターもございます
ゴルフ練習のあとはカフェテラスでリフレッシュ——

高級レストラン
「ザ・チェック」神戸店

神戸市生田区山本通5丁目6(相楽園山側) ☎ 078(351)3522 • 専用駐車場(10台)完備

ミナトを見晴らすデラックス練習場
諏訪山ゴルフセンター





tea & snack

Don Juan

恵一子の店 ドンファン

姫路信用金庫 B1

神戸市灘区山田町3丁目1の15

TEL 821-6426



“ドン・ファン”をたずねた陳舜臣氏、伊奈良本辰也氏、六甲のふもとに、スペイン風のTea & Snack「ドン・ファン」を開きました。昼はコーヒーとカレー、夜はドリンクの気軽な店です。ぜひお立ち寄りください。

花柳芳恵一子

● Menu

スパゲティ	¥400	B, W	¥550
ハンバーグ	¥500	G, G	¥450
スペイン風野菜サラダ	¥500	生ジュース	¥300
ポタージュ	¥300	コーヒー	¥300
コールコンソメ	¥300	Tea	¥300
Tea time		am 10:00 ~ pm 5:00	
Drink time		pm 6:00 ~ am 1:00	



ママ／植田延子

SNACK
Non

神戸市生田区中山手通1丁目
 ダイワナイトプラザ2F
 TEL 231-2000
 P.M. 6:00 ~ A.M. 1:00



●メニュー

ビール	400円
オールド	500円
お茶漬	600円
オールドキープ	7500円



● 北海道の味覚 ●

- 北海道帯広市西2条9丁目 オリエンタル観光株
大雪山国立公園糠平温泉富士見観光ホテル直営
- 毛がに 2000~2500円 ルイベ(シャケのサシミ) 500円
お酒 300円 蝦夷鍋・十勝鍋 500円 十勝ワイン 300円
- 北海道一品料理 ●
帆立貝(ほたてがい)
北寄貝(ほつきがい)
氷下魚(こまい)
柳葉魚(ししゃも)



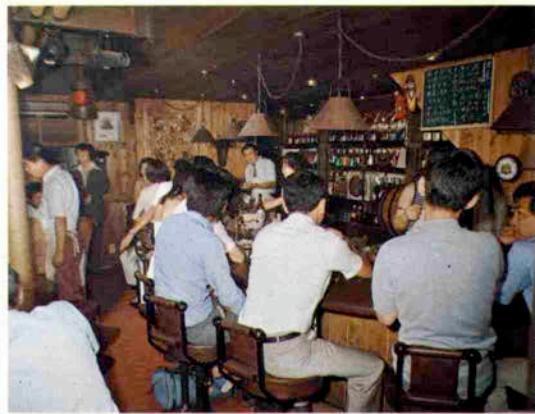
北海道
蝦夷

神戸市生田区中山手通1丁目115 生田東門筋東門会館ビル1



DRINK & SNACK
スネカジリュウ

生田区下山手通 2 丁目 30
永晃ビル地階
☎ 391-8708



Stand & Snack

生田区北長狭通 1 丁目

いわ菴

22

☎ 391-5823

KOBE DRINKING GUIDE

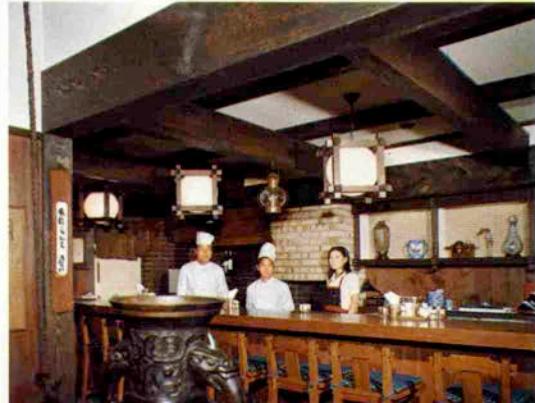
スタンド 紋



生田区北長狭通 1 丁目
41-1 レンガ筋
☎ 331-8858

すみやき

生田区元町通 3 丁目
中突提筋
☎ 331-2108



★いつも、気のきいたジョークと、底抜けに明るい笑い声の絶えることのないお店。それが“スネカジリッ子”です。“スネカジリッ子”的スペースに足を踏み入れると、いつの間にやら、スネカジリッ子独特の空気になじんしまって、ずい分と昔から、そこに腰を落ち着けているような錯覚にとらわれたりするのです。グラスをソッと置いて、傍の彼(あるいは彼女)とのおしゃべりをやめて、目を閉じてみると、ホラッ、とっても居心地のいいスペースであることが、身体中で分るのです。心ゆくまでエンジョイできるスペースをもっていることが現代の若者の条件なのです。

☆水割 G & G ￥300 ビール(小) ￥250 おつまみ ￥100

ピッツア ￥350 ミニチュアビン(W) ￥500

5:30 P.M. ~ 1:00 A.M. 第1・第3月曜日定休



スネカジリッ子

ツンとすました店なんかクソくらえ！ お客様と一緒に遊ぼうじゃないか。それが“山莊”的哲学なのです。店は20代、30代のホワイトカラーのたまり場。底ぬけに明るく、リラックスした雰囲気は最高です。掛け値なしに神戸独特のムードがピッタリの店なのです。マスターの上松さんは、これまた独特の個性をもったひと。バンドギターの調べにのって、うたをうたえばこれまた楽し。ワイワイガヤガヤ……。おまけにドキッとするハプニングも充満しているのです。ホラ、ムンムンする熱気のなかから何かが起りそうですよ。

☆パーティ・コンバ・クラス会などにもご利用下さい。

6:00 P.M. ~ 2:00 A.M.



山 莊

KOBE
DRINKING
GUIDE

六 段



スタンド“紋”



★生田新道山側を東へ歩いて、レンガ筋をショット入った左側にスタンド“紋”があります。扉を気軽に開けて入ると、そこは、あなただけの小宇宙です。スタンド“紋”がこのレンガ筋のユニークな店として喜こぼれている秘密は、その落ち着いた雰囲気と、店の個性あるメンバーのせいなのです。巷に灯のともる頃、まだ先のはずの秋の訪れをフト感じたような気になったとき、足は今宵もスタンド“紋”へと向かうのです。ほのぼのとした春の宵、情熱に燃える夏の宵、もの想う秋の宵、暖かな灯が恋しい冬の宵——。四季を通してスタンド“紋”をあなたの憩いの場としてぜひ御利用下さい。

☆フィズ ￥400 ビール(中) ￥400

6:00 P.M. ~ 1:00 A.M. 第2・第4日曜日休み

★すみやきばらー“六段”が登場して以来、この間、神戸の方にはもちろんのこと、遠方の方にも、その味にはご好評をいたいでまいりました。選びぬかれたコーベ・ビーフのまろやかな舌ざわり。ねり上げられたたれ味噌のこくのある味。いずれも、食通の方にも、さすがは“六段”的味！と御満足いただけるものと自信をもっております。琴の音が流れる落ち着いた雰囲気のなかに、すみやきの神戸肉の芳香のただよう店内はなつかしい日本の古里を想いおこせます。どこにもない“六段”だけの味をぜひご賞味下さい。

☆ステーキ (サラダ・スープ付) ￥1,800より バーベキュー ￥600より
しゃぶしゃぶ ￥1,800 さしみ ￥3,000 その他お好みにより調理いたします。

☆12:00 P.M. ~ 9:00 P.M.